

# CASBEE® 京都-新築

# 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	堀場エステック本社ビル	階数	地上5F
建設地	京都府京都市南区上鳥羽鈴立町11	構造	SRC造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	60人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2013年9月20日
敷地面積	4,904㎡	作成者	野田晋一郎
建築面積	581㎡	確認日	2013年9月20日
延床面積	2,126㎡	確認者	高梨俊寛



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 2.1

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 2.6

音環境	1.0
温熱環境	3.0
光・視環境	2.6
空気質環境	3.0

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 2.9

機能性	2.6
耐用性	2.9
対応性	3.3

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 1.2

生物環境	1.0
まちなみ	N.A
地域性	1.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 2.6

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 2.7

建物の	N.A
自然エネ	3.5
設備システ	2.0
効率的	3.0

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 2.6

水資源	3.0
非再生材料の	2.4
汚染物質	3.0

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 2.7

地球温暖化	3.0
地域環境	2.5
周辺環境	2.7

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
①耐久性、汎用性の高い建材を使用し建物の維持管理を容易にする。 ②無駄な装飾等の建材を省く事により、周辺環境との調和を図るとともに、地球温暖化対策に貢献する。 ③製品の品質確保及び工場労働者の快適な労働環境を確保する為に適した空調・電気設備とする。	0
<b>Q1 室内環境</b> クリーンルーム及び実験室エリアについては工場労働者が快適に働けるよう必要十分な室内環境を形成する。執務室空間を十分に確保し、従業員の職務環境を良好なものとする。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外周部に緑地帯を設ける事によって、周辺環境形成に貢献し、また従業員が安らげる環境とする。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電を設置し、周辺部に環境への啓発を行うとともに、地球温暖化対策へ貢献する。	<b>LR3 敷地外環境</b> 従業員及び来客者用の駐車場、駐輪場を十分に確保し、周辺交通に支障をきたさない配慮をするとともに、従業員が快適に通勤を行えるようにする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される